

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090600012		
法人名	社会福祉法人諏訪福祉会		
事業所名	かりんの里複合福祉施設認知症対応型高齢者グループホームかりん		
所在地	長野県諏訪市高島1-1-11		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成24年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は上諏訪駅に近い立地で、御面会の方が施設に来訪し易い環境である。また、諏訪湖や高島城といった諏訪地域に馴染みのある場所がすぐ近くにある。住み慣れた環境を生活の中で感じられる複合施設内に事業所がある為、併設しているユニット型地域密着型特養、及び認知症対応型通所介護事業所との交流も盛んである。合同のイベント参加はもちろんの事、地域の高校生や福祉大学の方による演奏会や、ポランテア活動による腹話術やフダダンスなど施設外からの来訪もあり、地域とのかわりも多い。併設している事業所の専門職には、管理栄養士や歯科衛生士がおり、指導を受け栄養管理や口腔ケアに力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者グループホームかりんは、デイサービス・地域密着型特養(3ユニット)・グループホーム(2ユニット)で構成された3階建のかりんの里複合福祉施設の3階に位置し、隣接して同経営の老健がある。グループホームかりんは最上階の3階にあるため、外出や災害時の避難には不便も伴うが、採光や眺めは良く、整理整頓やエアコンによる室温管理、電磁調理機による清潔感が行き届き、居心地良く過ごせる空間になっている。地域住民とは暮らしの中の交流や災害時の協力、複合福祉施設とは献立・口腔ケア・行事・災害時の密な協力関係、老健とは災害時の協力等の有機的な関係を背景にして、多くの研修の機会を設けて職員のスキルアップに努め、節電や節水の業務改善にも取り組んでいる。利用者や家族の思いや意向に積極的に耳を傾ける姿勢、整備された丁寧な介護計画作り、何時でも入れる入浴体制、重度化や終末期に向けての体制作りへの真摯な問いかけなど利用者笑顔ある日々の暮らしを届けようと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(かりん)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の触れ合いと笑顔を大切に」という施設理念を各ユニット・正面玄関に掲示するとともに施設案内用のパンフレットにも盛り込み、施設見学や施設実習の際には必ず説明させて頂いている。また、新入職員にはオリエンテーションの中で、施設理念に関する講義やグループワークを行っている。	複合福祉施設全体の理念を掲げ、職員会議や新人研修の場で理念の共有化を図っている。施設見学や施設実習の際にも理念の説明を対外的なアピールも行っている。グループホーム独自には部門目標を2項目掲げて共有化を図ると共に実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会運営の避難訓練に参加させて頂いている。施設で行われる5月の防災訓練や10月の水防訓練は地域住民の方に参加して頂いている。また、2月にはアイスキャンドル・8月は花火大会・10月は焼き芋会、暮れの餅つき大会・冬場の雪かきなど四季折々の行事は地域の方々と共にしている	四季折々の行事を地域の方々と楽しんだり、地域のボランティアや実習生の受け入れ、小学生との交流、散歩途中での挨拶、お裾分けを頂くなど地域住民との親しいつきあいをしている。自治会主催の防災訓練にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉関係の実習の受け入れや、諏訪市役所の職員研修、民生委員や各自治区の見学等を積極的に受け入れている。また、施設長自らが、実習担当として福祉大学の講師や実習指導者を務め、福祉従事者の育成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催している。会議ではご利用者状況や職員構成、職員研修報告や事故・苦情・行事等の報告をさせて頂き、委員の皆さまより頂いた意見を介護サービスの運営に活かしている。	3か月に1度、午後7時から地域・行政・家族・民生児童員の参加の下、開催され、事業所の現状、評価、事故や苦情、アンケート調査結果などありのままの事業所の様子を伝え、委員からの意見を頂いている。	構成委員が事業所の現場を見る機会を設けて、委員からの率直な感想を聞いたり、課題を提示して見てもらい、提案を受けるなど委員と共に作る事業所運営に取り組まれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議はもちろん、事業者連絡会議(行政主催)への参加や、機会あるごとに市の担当者や広域連合の職員と連携を図っている。また、市役所の新人研修も毎年受け入れを行っている。	市の新人研修の受け入れ、広域連合主催の事業者連絡会議への参加、事業所の抱える課題等の随時の相談など行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	広域連合や市の担当者に利用者の日々の暮らしの現場を見てもらい、認知症事業所の現状を理解してもらおうと共に課題や疑問点を話し合う機会を作り、行政と共に課題等の解決に取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規程や重要事項説明書に明文化している。また、入職時のオリエンテーションや施設内研修で「身体拘束廃止」の講座を取り入れ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し、法人全体として取り組んでいる。	拘束しないケアについては運営規程に明示すると共に研修会や拘束廃止委員会の報告で学習し、職員への認識の共有化が図られている。玄関は施錠されているが、何時でも利用者の要望に応えられる環境は整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示職員に周知している。また、日々の業務の中でも虐待が見過ごされる事のない様、スタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には積極的に参加し、身近な問題としてスタッフが認識できるよう、伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになられる方はもとより、出来る限り介護に参加されている方に対して説明が行えるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関窓口に苦情・要望受け付け箱を設置し、苦情などがあった場合には、ユニットおよび幹部会議で話し合い、改善策や回答を掲示している。また、1年に1回ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、アンケートより頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受け付け簿の内容やアンケート結果については、運営推進会議においても報告している。	利用者には年1回の満足度調査、家族等には苦情要望受付箱、苦情受付窓口、面会の折や電話で利用者の様子を伝えると共に要望等を聞いて、思いや意向等を言える機会作りをしている。提案された意見等は速やかに改善策を検討し、開示すると共に現場での実践に取り組んでいる。法人や複合福祉施設の広報紙を発行し、利用者の日々の暮らしぶりを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会や各種委員会には出来るだけ施設長が参加し、職員の意見や要望を聞き、施設運営に活用している。又、必要であれば個人面談も行い職員の率直な思いも聴いている。	平成22年度より人事考課制度を導入し、職員の意見要望を聞いている。必要に応じての個人面談や研修会や勉強会を積極的に行い、職員のやりがいや向上心を引き出す工夫もしている。馴染みの関係を考慮した勤務や異動等への配慮も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、幹部会議を開き運営実績の報告や業績についてねぎらいの言葉をかけている。又、昨年度から人事考課も取り入れ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。又、外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流は行っているが、他施設で運営されている事業所との交流は少ない。外部の研修会や、施設内での研修に参加し、同業者との交流や、自己研鑽に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り1対1で対応し、ご利用者様の思いや希望を聞き、更にコミュニケーションの構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所された時の対応や接待時の対応には、特に注意し十分に時間をとり、ご家族やご本人の意向に沿うよう話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向に沿うよう他のサービス利用も希望された時は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活出来る環境作りに努め、一人ひとりの気持ちを尊重した関わり作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来居の際、日ごろの生活の様子を細かく伝え、ご本人の状況に合わせてご家族の思いや希望に沿えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で生活していた近隣の方の訪問にはスタッフも快くお迎えし、ゆっくり過ごせる場所の提供や共に過ごせる時間の確保に努めている。	基本情報により利用者のこれまでの地域との関係性を把握し、知人友人の訪問の際には場所や時間への配慮を行い、これまでの関係が継続出来るよう支援している。電話や手紙等の支援や家族の協力を得ての墓参りなども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がスムーズに係われるよう要所所でスタッフが介入し、潤滑的な存在でいられるよう配慮している。また、入居者間での居室の行き来もトラブルがないよう見守り、ご本人の自由を束縛しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や医療機関に行かれた後も、ご家族からの問い合わせに対し相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに対し担当制をとっており、日々の生活の中からご本人の思いを聞き出せるよう努めている。また、ご本人の意向に沿えるようスタッフがカンファレンスを通し同じ認識となるよう努めている。	基本情報を土台にして、利用者がこれまでの暮らしの中で感じた思いや意向、得意なことなどを把握すると共に事業所での日々の暮らしの中での言葉や表情から「今」どんな思いを持っているのかを理解しようと努めている。食事、入浴、レクリエーションなどのことを利用者に聞いたり、提案して、希望や願いを引き出す工夫もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活経過についての把握は個々に行っているが、生活環境が変わってもその方らしく生活出来るよう、出来る事を取り入れながら生活して頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな1日の生活メニューを組み立てて、時には行事なども盛り込み、それぞれの身体状況に合わせ無理なくご本人のペースに合わせられるよう計画作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の変化に合わせ担当者を中心に、カンファレンスを開き方針の確認をしている。	センター方式の様式を活用してアセスメントを行い、家族等も参加してのケース検討会議を通じて3~4項目の無理なく実行できる介護計画が作成されている。支援経過記録にケアプランの実行や生活記録が丁寧に記載され、これを土台にして月1回の実施状況の把握、3か月に1度のプランの見直しが行われ、心身の変化に応じての随時の見直しも行われている。アセスメントから評価までの流れは良く、まとまりのあるプラン作りになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録を通し、その日の状況をスタッフの一人ひとりが把握し、さらに申し送りでも重要なポイントを伝えている。状態の変化に伴い、その都度計画の見直しを迅速に行うよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な事柄に終始せず、スタッフが対応できる事は(例えば通院介助や外からのサービス)柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺のスーパーにスタッフとともに買い物に出向き、自由に買い物を楽しんだり催しものを楽しんだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり主治医が変わる際、ご本人やご家族の意向を確認し、事前に受診して頂いたり、主治医への情報提供を行いながら、継続した医療が受けられるような配慮をしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医になっており、受診は家族が行い、受診結果等の情報は共有化されている。利用者毎のかかりつけ医との連携も取れている。重度化した場合などには往診の出来る医院に変更する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状の変化に伴い細かい情報提供がされている。また、特別な変化が見られなくても、日々の状況がつかめるよう連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院の際、出来る限り早い時点で入院先の医療相談室と病状や経過、今後の予後などについての情報を頂き、退院時は迅速に帰居される準備を行っている。その際ご家族も含め話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方についてご家族の希望を確認し、ご本人やご家族の意向に沿えるよう現在のグループホームとして、出来る限りの支援に心掛けている。	重度化や終末期の対応は基本的には行わない方針であり、利用時に説明し、家族等の理解を得ている。終末期等の対応についてはかかりつけ医(看取りを勧め、対応するという医師もいる)の協力を得られるか検討中であり、特養の看取り委員会との連携を取りながら、家族等の意向にそえるような体制作りを鋭意検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時のオリエンテーションや施設内研修で急変や事故発生時に備え、研修を受け対応できるよう学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入職時のオリエンテーションや、年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の協力を得て行っている。	夜間想定通報・避難・消火の防災訓練、水防訓練を地域、消防団、消防署の協力を得て行っている。食料等の備蓄もあり、事業所近くの職員が早く応援に駆け付けけるような連絡網が整備されている。特養や老健からの協力体制も整っている。	火災の際には3階から外階段を使って避難誘導する体制になっている。利用者全員を安全に、短時間で避難させることが出来るのか、問題点は、他の方法は、などを発見するためにも現場で、利用者の安全面に十分配慮して、具体的に実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語での対応を意識し、声掛け時もプライバシーが守れるような配慮を意識している。	運営規程等に守秘義務を明示すると共に法人全体の研修の中で尊厳保持について学習し、認識の共有化を図っている。言動のチェックは各ユニットのリーダーが行い、敬語での対応や本人の思いをゆっくり聞くなど、誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いが聞けるよう選択肢の掲示を行っている。出来る限り1対1で本人の思いをゆっくり聞ける時間をとるよう意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクを含め、ご本人の意向を尊重し対応している。(入浴は、曜日関係なく連日対応)時間には縛られない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際本人の希望を尊重し選んで頂いたり、化粧をしたり身だしなみについて意識している。ご本人の希望で楽しく行えるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	複合の特性でメニューは決まっているが、それぞれの嗜好を聞きながらメニューに入れてもらっている。外食も行っている。イベント食などで感想を聞き、次のメニュー作りに活かしている。	食事作りは下準備・片付け・食器拭きなど利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。献立は特養の管理栄養士が作成し、食材の準備もするが、調理はユニット毎に行っている。全国の郷土食など多彩な献立となっている。食事はメニューの説明があり、職員と同じテーブルを囲み、会話やテレビを楽しみながら、和やかな雰囲気の中で行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量のチェックや定期的に体重のチェックを行いBMIを計算している。体重の増減に応じ、摂取量も変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや見守り介助を行い、必ず口腔ケアを行っている。炎症などがある場合の処置も含め、行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導出来る限りオムツ内への排泄がなくなるよう意識している。排便パターンも同様に対応している。オムツ内への排尿が減ればパットやおむつの種類を変え、外せるような努力をしている。	トイレを利用しての排泄を介護の基本とし、排泄パターンや時間等を考慮してトイレ誘導や声かけをしている。食前や食後の声掛け、居室でのポータブル利用、尿取りパットやリハビリパンツの使用など1人ひとりの排泄に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず食べ物や適度な運動を心がけるようにしている。ご本人が食べやすい様刻んだり形態も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は連日行っている。特に時間を決めずご本人の希望を出来る限り優先している。	入浴は何時でも可能であり、職員からの声掛けで、利用者の気分や体調により入浴実施を決めている。平均すると1人週2～3回、1日3～4人となっている。長風呂、一番風呂など個々の思いにそった支援をしている。リフト付きの個浴であり、重度者や座位が保ちにくい方も安心して使用できる配慮が施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムに合わせ、ゆっくり休めるよう就寝や起床の時間を決めていない。眠れない方には、スタッフが付き添い起きていたり掛け物の調整をしたり工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにまとめスタッフの目の届く場所に置き、時間のある時目を通せるようにしてある。食前薬・点眼・食後薬を区別し間違えないよう工夫している。症状や日々の変化について記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る事の役割分担が自然にできている。ご本人の行いたい事や生活歴についてもこの対応の中から見出せた場合はそれを活かすようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿えるよう季節に応じても外出できるよう心掛けている。近くの公園などにも出向くよう努めており、気分転換が図れるよう努めている。ご家族の支援も頂きながら自由に外出している。	高島城、諏訪湖、事業所周辺など季節や天候等を配慮して散歩に出掛けている。花見・いちご狩り・紅葉狩りなどボランティアの協力を得る場合もあるが、ドライブ外出も行っている。朝の新聞の読み聞かせの中から、利用者の外出希望があり出掛けることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物はスタッフが付き添い、支払いは出来る限りご本人が行えるよう見守っている。出来ない場合でも、ご本人の気持ちを尊重し出来る限りの支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたい時は支援を行っている。手紙のやり取りも頂いたら返事が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた装飾をしている。温度調節や遮光等心地よい環境が作れるよう配慮している。	居間兼食堂は採光も良く、エアコンによる温度管理が行き届き、壁には利用者の作品が飾られ、快適な空間となっている。オープンキッチンからは調理の音や匂いがして、当たり前の暮らしの雰囲気がかかっている。生活感や季節感を取り入れた食事や行事・飾り付けの配慮がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで一人で過ごせる場所は少ないが、居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。また、気のあった入居者同士がそれぞれのお部屋に行き来する事も自由にできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には花や写真を置いたり、ご本人やご家族の意向に沿うよう努めている。自宅で使っていたものを持参して頂き、ご本人が心地よく過ごせるような配慮をしている。	事業所で準備したベッド・寝具・物入れ・椅子・テーブルで充分快適な空間となっているが、個々の利用者の馴染みの物(仏壇・写真・飾り物・ぬり絵の作品など)が個性的に配置されている。採光も良く、高島城の見える部屋、諏訪湖の見える部屋等それぞれの楽しみ方の出来る居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	焦点情報を利用し、出来る事出来ない事を分析し、日常生活の中に盛り込み、生きがいややりがいにつながるよう支援している。その中で安全面にも配慮し、フローア内の整理整頓に努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 5	運営推進会議に参加している方々に日中や直接現場をみていただく機会が少ない。	年に1度は日中に現場を見ていただく機会を設け、運営に関する率直な意見を聞く機会を作る。	・イベント食や普段の食事などに来て頂き、日中の現場を見て頂く機会を設けていく。 ・運営推進会議にて予定を立てる。	12ヶ月
2	35	避難訓練の際、実際に3Fから入居者様を1Fまで下ろしたいことがなく、職員も不安を感じる事がある。	実際に避難訓練を行なう。	・避難訓練の際には実際に1Fまで人を下ろす訓練をとり入れて行なう。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
目標達成計画